

Yearly Digest

2015/4 - 2016/3

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団 平成27年度主な事業活動の実績

スポーツチャレンジ助成事業

スポーツを通じて自己の夢・目標にチャレンジするアスリートや指導者、研究者等の活動を助成する本事業は、第9期対象者33名に助成。併せて目標管理PDCAを基軸とする独自のサポートプログラム（中間報告会・成果報告会・異分野交流など）を実施し、競技成績の向上や研究の進展を支援しました。また、第10期対象者の募集を行い、審査を経て、奨学生を含め35件（総額31,476,027円）を決定しました。



それぞれの目標に向けたチャレンジの中間報告会（9・10月／東京、全5回）を開催。チャレンジャー相互の質疑や審査委員からチャレンジャーへのアドバイスを送ったほか、座談会も実施。



アスリートや研究者がともに汗を流したスポーツ体験会。異分野交流の一環としてタグラグビーを行った。

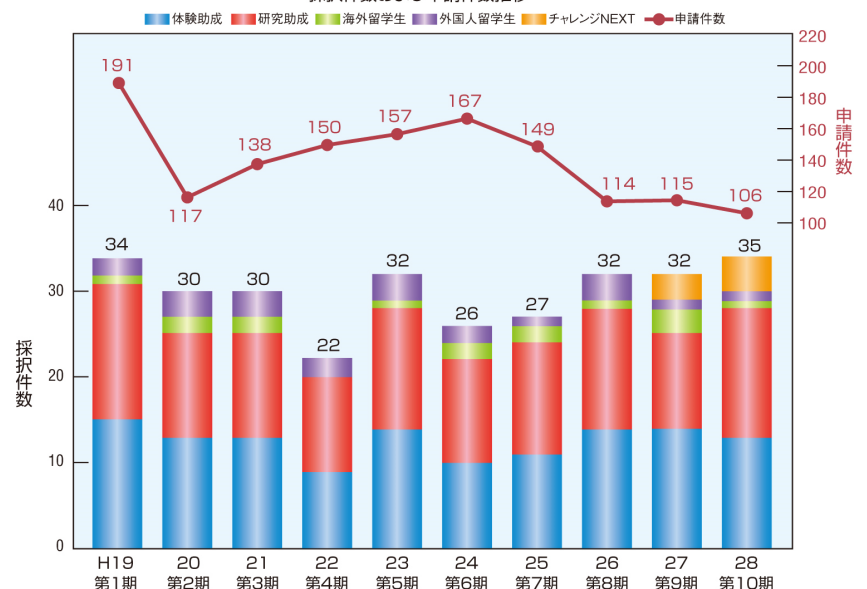


第9回YMFSスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング（3月／ヤマハリゾートつま恋）を開催。一年間の成果報告、第9期生修了式、第10期生助成金・奨学金贈呈式、各種講演、スポーツ体験会等を実施しました。（ウェブサイトレポートに掲載中）



助成対象者のチャレンジや活動の近況を伝える会報誌を6月・10月・2月の計3回発行しました。

採択件数および申請件数推移



スポーツ振興支援事業

ジュニアヨットスクール葉山

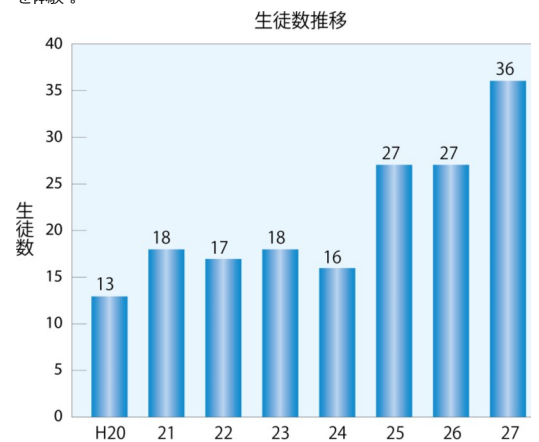
心身ともに健全な子どもたちの育成を目的に、小・中・高校生を対象に運営している本事業の平成27年度は36名の生徒の参加のもと、葉山マリーナ（神奈川県）を拠点とした通年型のセーリング指導に加え、水辺の安全講習会や伊豆大島外洋帆走訓練、浜名湖夏季合宿など、各種自然・水辺体験を促進する独自プログラムを実施しました。また本年度は国内レースをはじめ、海外レース参加など国際交流にも取り組みました。



夏休みを利用して、伊豆大島外洋帆走訓練を通して「チームビルド」を体験。



当スクール生が国際交流レース（豪州）に参加。2月3～10日。



セーリング講習を通じて基本技術と応用技術を学ぶとともに、各種自然・水辺体験学習などを通して自主性や自律心、協調性を身につけながら逞しく成長していきます。

第24回YMFSセーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖

第24回大会は、静岡県三ヶ日青年の家を会場に、平成28年3月24～27日の日程で、NPO法人静岡県セーリング連盟との共催で実施しました。北は山形県から南は佐賀県まで全国34クラブ、119名の選手が参加しました。本大会の特徴でもある国内トップレベルの講師陣による大会出場選手への技術指導や勉強会は、「学べるレガッタ」としてジュニア/ユースセーラーの育成を目指したプログラムが好評を得ています。またレーザー4.7級は昨年引き続き世界選手権代表選考会を兼ねて実施しました。



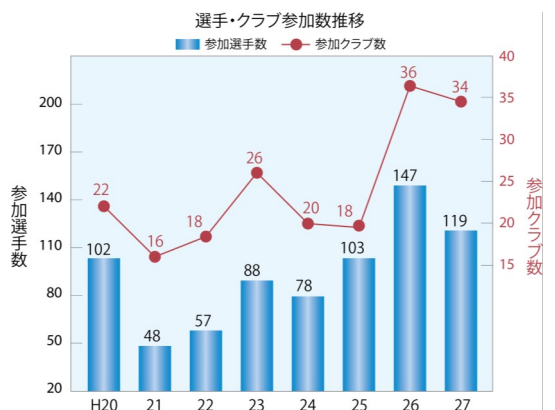
「第24回YMFSセーリング・チャレンジカップIN浜名湖」は、スポーツ振興くじ助成金を受けて実施されました。



特別コーチ陣による勉強会を開催。



レース中の選手の動きをチェックして技術指導。



全国34クラブから集まった109隻・119名のジュニア/ユース選手たちが熱戦を展開しました。

スポーツ教材の提供

「スポーツ機会の充実に向けた新たな取り組み」を計画している全国各地の保育園・幼稚園、小・中学校、特別支援学校、スポーツ団体等を対象に実施している本事業には、935件の申請があり、抽選会を経て120団体へスポーツ教材を提供しました。また、5年目となる東日本大震災被災地への支援として65団体へ教材を提供しました。2年目となる当財団近隣（静岡県西部の3市1町）の小学校を対象とする「指導サポート付きタグラグビー教材の提供」は、ヤマハ発動機（株）の協力のもと9校に実施しました。これらを通じ全国で約15,000人の子どもたちや教師・指導者が本事業に参加しました。



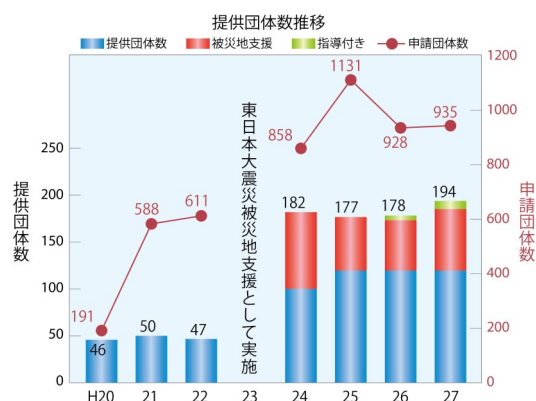
当財団から提供したサッカーボールやタグラグビーセットを活用して、子どもたちのスポーツ機会充実の一助となりました。



ラグビー選手による直接指導を行うサポート付きタグラグビーセットの提供。



提供教材の有効活用事例をウェブサイトで紹介。



第27回 全国児童 水辺の風景画コンテスト

子どもたちが積極的に水辺に出かけ、発見・体験したことを描くことを通して、感性を育み、のびのび成長するための一助となることを願い、全国の保育園・幼稚園、小学校、絵画教室等を対象に実施している本事業へは、689団体から8,763作品の応募がありました。これらの作品は選考会を経て入選501作品、文部科学大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、農林水産大臣賞各1名を含む入賞37作品を決定しました。各大臣賞受賞者の表彰式を行うとともに、入賞作品を「ジャパンインターナショナルポートショー2016」で展示しました。



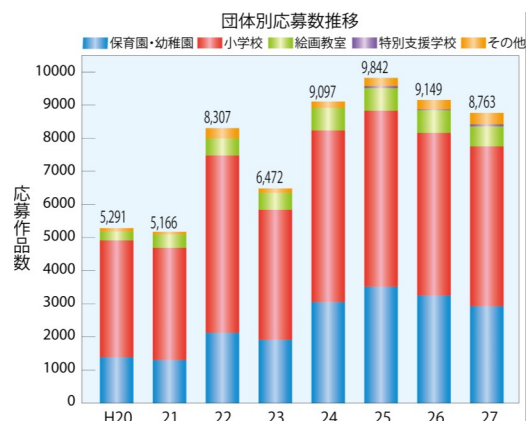
約9,000点の作品から選ばれた各大臣賞受賞者4名への表彰式を、大勢の同級生や園児が見守る中、受賞者の在籍する小学校、幼稚園、保育園の協力のもとに開催しました。



最終審査会を日展会館で開催。



ジャパンインターナショナルポートショー2016で入賞作品を展示。



スポーツ文化・啓発事業

ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞

スポーツ振興において多大な実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した「縁の下の力持ち」的な人物・団体を表彰する本事業は、第8回受賞者として功労賞に藤原進一郎氏を、奨励賞に中島正太氏を決定し、平成28年4月22日に都内にて表彰式を開催しました。また、前回（第7回）受賞者（妻木充法氏、門田正久氏）の足跡や功績をまとめた特集記事「BACK STORIES」を当財団ウェブサイトにて掲載しました。

第8回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 受賞者（敬称略）



公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 推薦

〔功労賞〕 **藤原 進一郎** ふじわら しんいちろう

日本障がい者体育・スポーツ研究会 元・理事長、日本障がい者スポーツ協会 元・理事、技術委員会 元・委員長、日本パラリンピック委員会 元・運営委員、極東・南太平洋身体障害者スポーツ連盟（当時）スポーツ委員会 元・委員長

「すべての障がい者の生活にスポーツを——」その信念を貫いた40年



株式会社ベースボール・マガジン社 ラグビーマガジン編集部 推薦

〔奨励賞〕 **中島 正太** なかじま しょうた

ラグビーワールドカップ2015 15人制日本代表チーム／男子7人制日本代表チーム アナリスト

先端技術を駆使したデータ分析で、ラグビー日本代表の躍進に貢献



第8回表彰式（平成28年4月／東京）を開催しました。多くの関係者が見守る中、表彰状、メダル、賞金目録、記念品贈呈などを行いました。

BACK STORIES



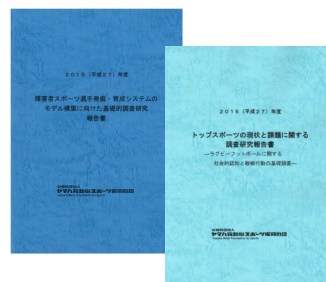
第7回受賞者のチャレンジの足跡をウェブサイトで紹介。

調査研究

スポーツ振興やスポーツ文化向上にかかわる社会的な課題の解決に寄与することを目的とする本事業は、4年目となる障害者スポーツ分野から「障害者スポーツ選手発掘・育成システムのモデル構築に向けた基礎的調査研究」を、また新たなテーマとして「トップスポーツの現状と課題に関する調査研究 —ラグビーフットボールに関する社会的認知と観戦行動の基礎調査—」に取り組み、調査結果を報告書として発行しました。また、調査結果の社会活用促進を目的にシンポジウムを開催した他、障害者スポーツの社会認知向上を目的に新たな取り組みとして小・中学生を対象に障害者スポーツ（車いすバスケットボール）体験イベントを実施しました。



横浜市内の小・中学生を対象に障害者スポーツ体験イベント「目指せ！未来のトップアスリート」（1月／神奈川県横浜ラポール）を開催しました。



平成27年度に取り組んだ2つの調査結果を報告書2冊にまとめ発行。



平成26年度調査に基づくシンポジウムを開催し、社会に発信（7月／東京）。